





ばんりゆうてい
蟠龍庭

この庭園は奥殿を中心
に五百余坪に亘る我が国最大
の石庭である

勅使門より観るに左に雄龍
右に雌龍を配して金胎子を
表わす

全面に京の白川砂を敷き
画かれた青海波大雲海と
なる

組まれた石は大師練行の
聖地四国の靈石である























県指定 真然大徳廟

指定 昭和40年4月14日

真然僧正は讃岐国の佐伯氏に生まれ、弘法大師の甥にあたる。高野山第二世として高野山の経営に従事すること56年。大師の理想を受け継ぎ、伝法会の基をひらき、次の時代の大才覚鑢上人に大師の精神を伝えた。昭和63年11月真然大徳の舍利器が出土して、ここが真然廟であることが明らかになった。

The mausoleum of Bishop Shinzen

Bishop Shinzen was born in the family of Saeki in the province of Sanuki as a nephew of St.Kobo-Daishi, After Daishi he worked as a manager of Koyasan for 56 years.

He founded the basis of the propagation of Buddhist doctrine and practice, thereby disseminating the lofty ideal of Kobo-Daisi to St.Kakuban, the genius in future.

In November 1988 a relic casket of Bishop Shinzen was unearthed here, giving evidence that this is his mausoleum.

総本山金剛峯寺





原に触れないでください。
総本山金剛峯寺



21

啓
止



